

2019年11月27日

立教大学国際学術研究交流制度
2019年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	社会学部・准教授
	氏名	林 怡夔
受入学部・研究科・研究所		社会学部
招へい 研究員	所属・職	Professor, School of Journalism, College of Economic and Administrative Sciences, Pontifical Catholic University of Valparaíso 所属機関所在国：チリ
	氏名	Claudia Mellado
招へい期間		2019年10月30日～2019年11月12日（14日間）
研究経費		516,440円

2. 滞在中の活動

来日および離日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

*「本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動」を行った場合は、該当する活動内容に※を付してください。

年月日	活動内容
2019年10月30日	来日
2019年11月4日	研究セミナー「The Interplay Between Journalistic Ideals, Perceived Enactment and Role Performance Across the Globe」 会場：12号館2階会議室 参加人数：5名
2019年11月9日	講演「Role Performance Research in Journalism Studies: What Have We Learned and Where Do We Stand?」 会場：17号館第二会議室 参加人数：6名
2019年11月10日	「Journalistic Role Performance」ワークショップ 会場：マキムホール第一会議室 参加人数：7名

2019年11月11日	「Journalistic Role Performance」国際調査打ち合わせ 会場：12号館 B328 林研究室 参加人数：4名
2019年11月12日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

Claudia Mellado 教授は、11月4日に研究セミナー「The Interplay Between Journalistic Ideals, Perceived Enactment and Role Performance Across the Globe」を開催した。教授はジャーナリズム研究の従来の規範論に基づいた研究手法を批判的に論じた上で、新たな視点として「Role Performance Research」を導入する意味および関連の理論概念を詳細に説明した。また、これまで12カ国で行ってきたフィールドワークで得られた知見も紹介し、日本とドイツからの参加者と多くの議論や意見を交わした。大学の秋休業期間とちょうど重なったことから、参加者は少なかったのだが、少人数ならではの濃密な議論ができた。

・11月9日には、「Role Performance Research in Journalism Studies: What Have We Learned and Where Do We Stand?」と題する講演を行った。各国のニュース報道の内容分析およびジャーナリストを対象にしたインタビュー調査の結果を紹介し、各国におけるジャーナリズムの特徴およびその異同を論じた。Q&Aの時間では、香港、台湾、韓国からの出席者と多くの議論を交わし、有意義な時間であった。

・11月9-10日の「Journalistic Role Performance (JRP)」国際ワークショップにおいては、Mellado 教授が第一回 JRP ジャーナリズム国際調査(2012-2018年)の結果を出席者とともに検討したうえで、2019-2021年に始まる第二回国際調査の諸課題についての話し合いと提案を行った。今回はアジア地域（日本、台湾、香港、韓国）の調査チームとリーダーが立教に集まり、二日間に亘り内容分析のコーディング・トレーニングを行ったほか、アジア地域に特化した共同研究の具体的な調査項目についても、様々な観点と提案を検討した。

・11月11日には、林研究室で Mellado 教授を交えて韓国チームとともに報道番組の映像を逐一確認して、詳細な打ち合わせを行った。また、日本の報道番組や新聞の内容分析については、アジア独特の社会的文脈や言語的ニュアンスをどのようにコーディングに反映させればよいか、議論を重ねた。

今回の招へいで得られたものは以下に記しておきたい。

・ Mellado 教授が率いる JRP ジャーナリズム国際調査のノウハウを今後日本の報道ジャーナリズム調査に導入することができると考えられる。とりわけジャーナリズムの国際比較の分野においては、よりユニバーサルな比較項目および基準を確立させることが期待できる。

（特記事項）本学との学術協定（学部間・研究所等間を含む）の締結または既存協定の維持・強化に資する活動を行った場合は、下記にその内容を記載してください。